

平成 29 年度第 2 回尼崎市食育推進懇話会議事録

日時	平成 30 年 2 月 23 日 (金) 午後 3 時～5 時
場所	尼崎市立すこやかプラザ 多目的ホール A 室
出席者	内田委員、奥田委員、高谷委員、中川委員、中根委員、西村委員、服部委員、三浦委員、水内委員、緑委員、山田委員、吉井委員、由田委員 (以上出席 13 名)
欠席者	中西委員、増岡委員
事務局 拡大事務局	保健部(檜垣部長) 健康増進課(森田課長、長谷川係長、辻野、正岡(記録)) 北部保健福祉センター(中川係長) 保育指導担当(代理 川島係長)、学校教育課(代理 吉本指導主事)
議事	1 今年度の食育の取組み評価について 第 1 回食育推進懇話会のまとめ 食育月間を中心とした食育の取組み 課題解決に向けた効果的な取組み展開について 2 食育フォーラムについて
資料	・平成 29 年度第 2 回尼崎市食育推進懇話会次第 資料 1: 尼崎市食育推進懇話会委員名簿 資料 2: 第 1 回食育推進懇話会意見 資料 3: 平成 29 年度 食育月間を中心とした主な食育の取組み 資料 4: 園田北まちづくり協議会 資料 5: 尼崎市食育フォーラムチラシ 資料 6: 平成 29 年度尼崎市食育フォーラム概要 ・第 2 次尼崎市食育推進計画冊子(各自持参)

開会挨拶

事務局	皆様、本日は大変お忙しいなか、食育推進懇話会にご出席いただき、ありがとうございます。また、1年間、様々な事業にご協力いただき、ありがとうございました。 本日は、配布している資料のとおり、皆様の協力をいただきながら進めてきた1年間の食育の取組みを振り返ることとあわせて、市内で実際に取組んでいる方々からその取組み内容を紹介いただく予定としています。また、2つ目の議題として、食育フォーラムについてご案内をさせていただきます。 ご存知のとおり、「食べる」ことは「生きる」ことに直結している大切なことです。尼崎市では、小さい頃から「食べる」ことを大事にしていきたいと考え、ヘルスアップの取組みをはじめ、“野菜をたくさん食べよう”、“朝食はきちんと摂ろう”というところにスポットをあてて取組んでおります。また最近では、「こ食」という問題が注目されています。「食べる」ことは「集う」ことにも関係しているため、子ども食堂を実施したり、地域で餅つきを行ったり、いろいろな作物を作ったりと、「食べる」ことを中心に人が集い、広がり、まちの元気がつくられている活動も多くあります。今日はそのあたりも事例の中でご紹介いただけるのではないかと楽しみにしております。 委員の皆様より、様々なご意見をいただきながら進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
-----	--

1. 今年度の食育の取組み評価について(資料2、3、4)

事務局	それでは、さっそく議題に入らせていただきます。 ここからの進行は、由田会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
会長	今年度、尼崎市内でいろいろ行われてきた取組みとその評価について、皆さまからのご意見等いただきながらすすめていきたいと思います。 まずは、議題1、今年度の食育の取組み評価について、事務局の方から説明をお願いします。
事務局	資料2をご覧ください。 第1回の懇話会では、食育の展開について、事務局側から、地域で子どもの食を支え、地域の中で食を伝えることを視点を、毎日朝食を食べるあまっこを育てることを重点的に取組んでいくこと、具体的には、「作る」「選ぶ」「伝える・啓発」の3つの手法で展開していくことを提案させていただきました。 委員の皆様からは、子どもたちの「包丁を持てない」「使い方が分からない」「野菜の切り方がわからない」という状況を受け、なかなか家庭での実践力が育っていないのかもしれないという意見がありました。また、「パンを食べながら登園してくる子どもがいる」「菓子パン、調理パンのニーズが非常に高い」現状に加え、家庭での調理になかなか時間がかからないという実態や、親と子の朝食欠食状況に相関があることから、親の食育の必要性も感じられました。これらについては、一人親・共働き家庭の増加や少子高齢化という背景の他にも、お惣菜等の調理済み食品が進化しておりわざわざ作るよりも時間の短縮が可能になっていることや外食の多様化、時間を問わずおいしく廉価な料理が食べられるといった、調理行動を阻害するような社会的な背景も関係しているかと思います。さらに、現状に対していろいろなところで食育の取組みが行われているものの、その情報の集約ができていないため、需要と供給がうまくつながっていないことがわかり、今ある資源を活用して情報の集約を行い、つないでいくことが課題としてあげられました。 複数の委員よりいただいたご意見は、体験活動による効果です。具体的には、子どもが学校

	に通っていることがきっかけで稲作体験の場の提供がはじまり、継続しているうちに地域の子どもの自然な交流が生まれたというお話や、保育所・幼稚園・小学校においては、「一寸豆」や「ゴーヤ」の栽培を行い調理実習をして食べるということを通じて、子どもたちが苦手なものであってもおいしいと喜んで食べるといったお話が聞かれ、育てることから収穫、調理、食べるまでの「一貫した取組み」が効果的であるという内容でした。 効果的に食育を推進していくためには、様々な「活動」と「人」をつなぐことが重要です。委員の皆さまが行っている「活動」をどのように展開していくことを目指すかということについて、資料にまとめています。例えば、コープこうべでは、サークル活動として行っていた方々が自らリーダーになって子どもに料理を伝えたり、店舗内に子どもの料理体験の場を設けたりする他、これまでのレシピに加えて小学校給食の献立表を店舗内に掲示して献立を考える参考にさせていただこうと取組みを行っています。また、園田北まちづくり協議会では、体験農園での野菜作りや子どもの居場所を地域の保護者や高齢者を巻きこんだかたちへ発展させる等の提案があり、これについては後ほど、内田委員よりご紹介いただく予定としております。アリクイ食堂では野菜の多いバランスの良いメニューを提供しているため、そのような飲食店等の認証制度はないかという提案をいただきました。 これらを踏まえ、今年度の評価について考えていきたいと思います。 次に、本市における食育月間を中心とした主な食育の取組みとして、資料3をご覧ください。 食育の取組みは非常に幅広く、様々なところで年間を通して行われています。事務局では、6月の食育月間、10月のひょうご食育月間の際には、市民へ周知する他、各関係機関への食育活動の実践や連携した取組みをお願いし、一体的に食育を推進するようにしています。具体的にいくつか紹介します。(1)ホームページはライフステージ別に講座の案内やレシピ情報を掲載するようリニューアルし、(6)アマメシでは尼崎の特徴を活かした発信を行うという、どちらも「伝える・啓発」の取組みです。その他の項目は体験活動が中心の取組みとなっています。(3)田植え体験は、武庫庄小学校で5年生を対象とした田植えの体験活動を、(4)みんなのサマーセミナーは、奥田委員が子育て支援で関わっているこども食堂と一緒に、自分で作る「夏休みごはん」をテーマに体験活動を行いました。(8)尼崎市学校給食展では、園田学園女子大学学生により「食育SATシステム」を使用した食事診断コーナーを設け、「選ぶ」体験ができる場としました。(12)尼崎糖尿病市民フォーラムでも同様の場を設けて取組みが行われています。(17)地産地消クッキングでは、山田委員が所属する食育サポーターの会と連携して、田能の里いもと地元でとれた野菜を使ったシチューづくりを行いました。 このようなかたちで、体験する、またはその場を設ける取組みが行われています。事務局としてはなかなか難しいと感じていたこのような取組みも、委員の皆様からは、JAや公民館等様々なところで行われているというご意見をいただきました。本市の事業でも、この他、ヘルスアップ戦略事業として、保育所、幼稚園、学校では野菜を食べる授業が食育月間に関わらず通年行われています。 事務局からの説明は以上になります。続いて、課題解決に向けた効果的な取組み展開について、食育サポーターの会を代表して山田委員、園田北まちづくり協議会を代表して内田委員よりご報告いただきます。
委員	今年度の食育サポーターの会の活動について、簡単に報告します。 先ほどの事務局からの説明にもあったように、今、家庭で調理にかかる時間が減り、子どもた

ちが包丁を持つ機会が少なくなってきたように思います。そのため、今年度は「調理実習」を中心に、子どもたちに手作りの美味しさや調理の楽しさ、「できた！」という達成感を感じてもらえるよう、また地産の食材を使った料理を知ってもらえるような取組みを行いました。6月のエコあまフェスタでは、「食」のイベントとして、簡単味噌汁の紹介を行いました。どの程度集まるのか不安でしたが、準備した200食があっという間になくなり、「美味しかった！」という声もいただき、大変好評でした。同じく6月には、立花南小学校6年生の家庭科授業での調理実習を子どもたちが安全に実施できるよう見守りを行いました。これについては、今年度初めて依頼をいただきましたが、2回目、3回目と継続して依頼をいただき、活動予定です。7月には環境オープンカレッジから依頼をいただき、小園幼稚園、大庄支所で「ゴーヤクッキング(ゴーヤカレー)」を行い、苦味をとるとこんなに美味しい！ということ伝えました。8月のみんなのサマーセミナー(双星高校)では、小学生とその兄弟姉妹を対象におやつクッキング(餃子の皮のピザ&手作りジュース;参加費150円)を行いました。当日受付を一部お断りするほど好評で、子どもたちからは、「こんな野菜食べたことない!」「おいしい!」という声が聞かれました。武庫地区会館では、同じ2品に加え、豆腐のみたらし団子を加えたおやつクッキング第2弾(参加費200円(保険代を含む))を行いました。12月には、地場産の野菜を使ったクッキング(参加費200円(保険代を含む))ということで、内田委員の協力を得て、「地元でとれたほっくりした里芋のシチュー & 大根の葉のふりかけ & 大根サラダ」づくりを行いました。その際、子どもたちにはクリスマスプレゼントとして里芋をプレゼントしました。

自主活動を行っている、調理実習に積極的に取り組む子どもたちの姿勢を見ることが出来ます。食育サポーターには少し高齢の方も多いため、そのような子どもたちと関わっていることで元気をもらえ、脳の活性化につながるという声もありますし、また、200円でこんな料理が作れるということに私たち自身驚くことも多いです。そのため、私たちの会では今後もこのような活動を続けていきたいと考えています。大変な点としては、場所の確保からレシピの作成、手順の作成、買い物等があげられます。また、当初予定していた広報だけではなかなか参加者が集まらず、急遽チラシを作成し、締切直前まで配布して呼びかけたため、今後はもう少し早い段階で計画だてて広報を行っていく必要があると感じています。サポーターの中でも試作会を行っていますが、当日はやはり緊張もあるのか、手順が違ったり、忘れたりと統一できていないことも今後の課題です。

12月の里芋クッキングで内田委員とのつながりができ、1月に猪名寺で行われた餅つき大会に食育カルタ大会のお手伝いとしてサポーター2名参加させていただきました。初めて猪名寺地域に行き、地域の方と触れ合いましたが、参加される方の多さに驚くとともに、餅つき等伝統的な行事が行われていることは素晴らしいと感じました。

最後に、平成28年11月より継続的に関わっている「放課後デイサービス エンジェルアイズ」でのお話を紹介します。ここは、放課後に発達障害の子どもたち4~5名/日程度預かっている施設で、私たちはそこで食を通じた遊び等の活動を行っています。ある1人の男子は、給食はいつも1~2口程度、おやつも決まった2種類しか食べないという子で、関わり当初は、私たちが訪れても先生にくっついて離れませんでした。しかし、野菜の端を使ったスタンプ等で継続して関わっていくうちに、少しずつ私たちの方に寄って来たり、ゲームにも入るようになり、昨年秋頃、先生から、おやつは何でも食べるようになり、学校の給食も全部食べるようになったと伺った時は本当にびっくりしました。今では、私たちが施設を訪れると子どもたち自ら寄って来てくれることが多いです。もう1人の男子も、野菜が嫌いでは食べられませんが、今では何種類かずつ食べれるようになったと伺っています。このような変化がみられることは喜びであり、私たちの活動意欲にも

	つながっていますし、この活動についても引き続き継続していきたいと考えています。
事務局	コープこうべでの取組みについては、事務局の方から説明させていただきます。 子どもの居場所づくり、地域との関係性の構築のため、また、子育てに不安を抱いている保護者も多いという背景から、にこにこランチというこども食堂を取組みとして行っているそうです。ただ作ったものを食べさせるというわけではなく、子どもたちと一緒に考え、作り、食べることを大切にしています。 またコープ立花店では、店舗内に学校給食献立表を掲示しており、多くの保護者に見ていただいています。子どもたちが給食で何を食べたのかを知ることで、夕食の献立を考える助けとなっているようです。また塚口店では、店舗内にクッキングができるスペースを設けています。そこで子どもたちが簡単なクッキングを体験でき、その様子を保護者をはじめ、来店した方が見るできるようになっています。
委員	続いて、園田北まちづくり協議会での取組みについて報告します。資料 4 をご覧ください。園田北まちづくり協議会はこのような事業を行っていますが、本日はその中でも主に食育に関する取組みについて報告します。 私は、自治会、まちづくり協議会等、地域のコミュニティの再生化、活性化に 10 年余り取り組んできました。最近はなかでも、食育の視点でその活性化にどう貢献できるかという問題意識で活動しています。 (1)こども農園の取組み 子ども会に加入している子どもは、10 年間で半減していると言われています。園田地域においても解散したりと、その継続は厳しい状況です。少子化で子どもの人数自体が減っていること、共働き世帯が増加し、親が役員になることを嫌がるということも原因のひとつとしてあげられます。ただ私としては、お別れ会、クリスマス会、ドッジボール大会等の年間行事を長年繰り返しているだけでは、今の社会的背景や子育て世代の現状にあった役割を果たせないのではないかと考え、再三話をしてきました。すると、ある保護者が、「子どもに農業を体験させたい！野菜作りを体験させたい！」と言ってこられました。尼崎市内で空き農地を探すことは簡単なことではありません。しかし偶然、知り合いの方で空き農地を所有している方がおり、「若い人に来て欲しい」ということだったため、すぐに子ども会に連絡しました。そんなに広い土地ではありませんが、土づくり、種まき、栽培、収穫、食事まで一貫した体験を子どもたちにしてもらうことで、必ず子どもたちの五感に刺激を与えてくれる、きっと何か新しい発見をしてくれると信じています。ブルーシートがかかっているような状態から子どもたちと一緒に鍬で耕して、畝をたちあげ、苗を植え付け、子どもたちはもちろん保護者の方も非常に楽しんでいるように見えました。近隣に発達障害の方が使用する施設があり、収穫にはその子どもたちも参加しています。昨年 5 月、6～7 世帯でスタートし、現在は 12 世帯が参加しています。取組みを通して子どもたちにみられた変化について保護者の方々に伺ってみました。 ・季節のイメージの変化 これまで、夏をイメージした絵といえば、花火や海を書いていた子どもたちが、トマトやナス等の夏野菜を書くようになった ・産地や生産者への関心 食卓に並んだ野菜について、「こども農園の野菜？」「内田さんにもらったの？」「スーパーで買った野菜？」と、産地に興味をもつようになった

生産者の顔が見えることで、美味しさや安全・安心を感じることができる

・野菜の生育に対する関心

生育について、特に季節と結びついて考えることが多くなった

(雨が降る→水やりにいなくていい、晴天が続く→土が乾いていないかな等)

子どもたち自身がその日の天気を見て、野菜の生育を気にするようになった

・それまで口にしなかった野菜を自分が育てたものであれば美味しく食べるようになった

(2)「地域ふれあい食堂」の開設

こども食堂は市内いろいろなところに来つつあります。ただ、地域では一人暮らしの高齢者も増加しており、そのような方はなかなか皆で集まって会食をする機会がないというのが現状です。そのような状況を受け、貧困の子どもたちだけを対象とするのではなく、高齢者と子どもと一緒に食事をするところをつくらうと考えました。3月18日(日)にオープンし、毎月第3日曜日に開催していく予定としています。費用は、子ども(30人)が無料、高齢者(20人)が350円です。さらには、ハードルは高いかもしれませんが、福祉と食育を結びつけるという考えのもと、夕食時、見守りと合わせて、地域でとれた作物を使用した食事を配食するサービスができないかと考えています。同様のサービスは今もあります、実施しているほとんどが事業者です。食中毒等問題は多々ありますが、リスクばかりを気にするのではなくメリットを活かすために、より地域に密着した活動としていくために、何が必要でどうすればいいか、行政と協力しながらすすめていきたいと考えています。

(3)尼っこ食育カルタを活用したコミュニティの活性化

冬の風物詩として毎年、新春ふれあいまちつき大会を実施しています。漫才や落語、コーラス等毎年毎年内容を変更しながら、今年で10年目を迎えました。今年は、食育サポーターの会にお願いをして食育カルタを実施しようと企画したところ、ありがたく頂戴することができました。当日、サポーターの皆さんにカルタの話をしていただき、子どもたちはその歌と踊りを元気よく楽しんでいました。また、地域には下校時の子どもの見守りを行っている高齢者見守り隊という方々がいます。日々の下校を見守っていただいているのですが、なかなか子どもたちとゆっくり触れ合ったり会話をする機会はありません。そのため今回は、見守り隊と子どもたちの対抗戦をしたところ、すごく盛り上がりました。勝ったのは子どもたちでした。また、子どもたちどうして個人戦も実施しました。5年生の女儿が優勝し、景品としてオーガニック大根を2本プレゼントしました。他にもこのカルタは、園田北小学校で50人程度を対象に毎年実施している猪名寺忍者学校では、年6回のうち1回、食育カルタ術を会得しようということで企画をする等、様々なところで活用しています。

(4)伝統野菜を活かしたコミュニティの活性化

昨年11月、地域商店(12店舗)と地域団体(子ども会、婦人会、老人会、自治会等)との協働で「里芋・地域コミュニティバル in 猪名寺」を開催しました。地域商店には、田能の里芋を使用した1品料理(里芋あっさり和風仕立て、里芋鶏ミンチ煮っ転がし、里芋ポテトサラダ、きぬかつぎ、里芋の中華風あんかけ、里芋まんじゅう、里芋コロケ、里芋おでん等) & 1ドリンクを600円で提供していただきました。約1000枚のチケットを3枚つづりで販売し、約900枚、50万円程度の売り上げがありました。

また、田能の里芋は昨年、学校給食にも使用されました。市報にものせていただき、子どもたちからも「美味しかった!」という声をたくさんいただきました。

(5)都市と農村交流で地域活性化

	丹波篠山雲部地区と連携して、軽トラ野菜市を約 10 年開催しています。人気であつという間になくなることが多いです。丹波の黒枝豆の特産市等も行っています。 以上、コミュニティの活性化と果たすべき役割について、報告させていただきました。
会長	ありがとうございました。 それぞれが積極的に取り組んでいるということがよくわかる報告だったと思います。私から一点質問ですが、これらの取組みが事前に予定されている場合、例えば、市ホームページの食育のページにあらかじめ登録する等の方法で PR することも可能ではないかと考えますがいかがでしょうか。また、それでない場合でも、PR について事務局側が入って情報をつなぐことはできるのでしょうか。
事務局	年間を通して全てを網羅できているわけではありませんが、6 月、10 月の食育月間においては例年の取組みを把握していますので、事前にホームページやフェイスブック等で発信を行っています。
会長	先ほど、山田委員からビラ配りが大変だったという旨の話があったので、事前にホームページ等で発信すると、地域の保育所、幼稚園、小学校等に情報がまわりやすいのかなと考えていました。何か仕組みづくりができれば、それぞれの事業がつながり、より広がりをみせるのではないかと思います。
事務局	「市民活動の広場あまがさき」や市ホームページ内「イベント情報」では市民の皆様の様々な活動を発信しています。ただ、“食べる”ことや“食育”にスポットをあてた発信というかたちではありませんので、例えば、情報発信を担当している部署と一緒に、“食”の情報を分かりやすく整理できるようなかたちができないか検討していくということもひとつかと思っています。
会長	それでは、委員の皆様からも意見をいただきたいと思います。 先ほどの内田委員の報告で、子どもたちに農業体験をさせてあげたいと思ってもなかなか農地を探すのが難しいという話がありましたが、西村委員からなにかご意見いただけますでしょうか。
委員	尼崎市において、耕作放棄地はほとんどありません。しかし、高齢化がすすみ、農地を維持することが大変になってきている所有者の方は多いでしょう。ですから、先ほどの報告にあったような、提供側と使用側でうまく波長が合った場合はいいと思います。ただ、所有している土地の規模が大きいところがほとんどであるため、家庭菜園的に実施するのは難しいです。農業の仕事を手伝って欲しいという人は多いですが、子どもたちに体験させるということは大変な面も多く、楽しんで作業をやった後の手直しをする手間を考えると、様々な可能性は持っていると思いますが、困難なことも多いのが実状です。
委員	市内には市民農園がありますね。農政課との連携が必要かと思いますが、地域の宝である子どもたちに農業体験をさせるために、一角を優先的に貸す等でこの市民農園をもっと有効活用できないでしょうか。子どもたちへの食育という観点から何かできることはないか、前向きに考えなければならぬと思います。
委員	税制的に、農地にはしばりがあります。先ほど、耕作放棄地はないとお話しました。しかし、正しい言い方はわかりませんが、見せかけの農地はあると思います。放棄してしまえば税制上非常に厳しくなるということに対していろいろな働きかけは行っていますが、税制を変えていくということは非常に難しいです。食育とは直接関係はありませんが、農地を所有している側にもハードルがあるという話だと思います。

会長	保育所では子どもたちに園庭等を利用して栽培等を行っているのでしょうか。
委員	栽培から収穫、それを活用したクッキングなど、年間で計画をたてて実施しています。それほど広いスペースではありませんが、そのようなかたちで実施できている状況です。
会長	小学校の方ではいかがでしょうか。
委員	小学校も同様で、校内に、花壇と農園どちらでも使えるようなスペースがあるため、そこを活用して理科や家庭科の授業で使用するものを栽培しています。先ほどからの話にもありますように、子どもたちは自分たちで作ったものは美味しいと言いながら食べるので、そのような取り組みの利点はあると感じています。ただ、学校によっては、日当たりが悪い等条件に恵まれていないところもありますので、そのような場合、例えば徒歩圏内で行けるようなところに貸していただけるような農園があればぜひ提携していきたいと思います。
会長	個々には様々な要望があるようですが、行政の縦割りによる問題なのかうまく結びついていないところもあるように感じました。保育所や幼稚園、小学校の父兄の方、PTA の方も一緒に連携して地域で声をあげることができるといいかもしれません。共働き世帯が増加し、PTA 等の活動に協力しづらいという方も増えているかと思いますが、いかがでしょうか。
委員	積極的に関わっていただけるかなと思うのはOBの方々です。現在PTAに参加していただいている方々に今以上というのはなかなか厳しいです。土日であれば、と考えても、習い事で忙しいということも多いです。
会長	市民の目から見て、このように様々行われている取り組みを、どのようにすれば情報が入りやすくなったり、参加しやすくなったりすると思いますか。
委員	市報は皆さん、目を通してと思います。特に、子育てに関する情報の部分は見ているお母さん方が多いです。「市報を見て来ました！」とつどいの広場に来られるお母さんも多いので、市報の活用はひとつかと思います。
会長	例えば隔月とかで、食育に関する情報があるといいのかもしれませんがね。 お母さん方の関心というところで、コープこうべで実施されている小学校給食献立表の掲示に対して反応等いかがでしょうか。
委員	もともとこの取り組みは、組合員の方から、子どもたちの昼ごはんとかぶらないように何かあればいいなと声をいただいたことがきっかけで始まりました。狙いどおり、お母さん方が見ていることも多いですが、意外だったのは高齢者の方にもよく見ていただいている点です。少しお声掛けをしてみると、「この献立なつかしいわ」と話されていました。高齢者はどうしても献立が固定化しやすいため、日々のメニュー提案にもつながっているのかなと感じています。
会長	食育の対象は子どもだけではなく、大人から高齢者まで全てを対象としています。 医師会や歯科医師会の中で、食育に関する情報を流したり、コミュニティのようなものはありますか。また、受診した患者さんに対して情報を提供することはあるのでしょうか。
委員	食育というものはないと思います。医師会の中には学校保健委員会というものがあります。そこで作成しているカレンダーに掲載するポスターを小学生、中学生から募集しており、平成 29 年度までは“たばこ”がテーマだったものが、平成 30 年度は“食育”になりました。テーマが変更になってどう描いていいかわからないということもあるのか応募数は少なかったですが、回を重ねていくと認知度も上昇してくるのではないのでしょうか。そのような経過のなかで、重点的に取組んでいる「朝食を食べること」や「一人ではなく一緒に食べる」ことが改善されるのかみていきたいと思います。

	自分自身の話になりますが、子どもの頃、養鶏をばらして食べたり、釣ってきた魚を調理して食べていました。野菜を育てる話もそうですが、そのような経験は、子どもが命を大事にすることを感じることに繋がると思います。
委員	朝食を食べない子どもは歯磨きをせずに学校に行きますし、おやつを時間を決めずに食べたりする子ども等、生活習慣と虫歯の多さには関係していると思います。また近年、部活をしている中学生が熱中症予防にスポーツドリンクを飲んでいることと虫歯の増加も問題視されています。 日々の食事について指導している熱心な歯科医院もあるかとは思いますが、ほとんどのところでは食育ということではしていないかと思っています。
会長	吉井委員は、飲食店でバランスのとれた食事を提供しているとのことですが、国の取組みで近々、健康的な食事を提供しているところに対して認証するような制度が始まるということも聞いています。このような取組みについてどうお考えでしょうか。
委員	ぜひ欲しいです。毎日一生懸命していることがそのようなかたちになればありがたいなと思います。

2. 食育フォーラムについて(資料 5、6)

会長	続いて、議題 2 食育フォーラムについて事務局より説明をお願いします。
事務局	資料 5: 尼崎市食育フォーラムのチラシ、資料 6: 平成 29 年度尼崎市食育フォーラム概要をご覧ください。 第 2 次尼崎市食育推進計画を策定した平成 26 年度より毎年、市民を対象とした食育フォーラムを開催しており、今年度 4 回目の開催を 3 月 17 日(土)に尼崎商工会議所で実施します。 市民に対して行ったアンケート調査では、食育に対して関心は低いこと、ただ、具体的な項目に対して意識と実践とでかい離があることがわかっています。また、自身の食事について今後どうしたいかという問いに対して、若い世代の方が今よりよくしたいと回答する割合が高くなっています。このような現状をふまえ、若い世代が、改めて日々の食の大切さや、無理なく実践できる手法を考える機会になることを目標としています。 第 1 部は、神奈川工科大学の饗場直美先生を講師に迎え、「食と健康 食べる意味をさぐる」と題し、講演をいただきます。饗場先生は食と、脳機能や免疫機能との関連性について幅広く研究されていますので、食べることを栄養面だけで考えず多面的にとらえて、食べるという行動にどのような意味があるのか、具体的な食生活についての提言もいただきながらお話いただきます。 第 2 部は、「あまがさき発 食が生きづくまちを目指して」をテーマに、まち、市内で様々な立場で食育を実践している方々をパネリストとして迎え、ディスカッションを予定しています。食育を個人や家庭の中だけで取り組むこととせず、地域全体で推進していくためにどのようなことができるか、食が生きづくまちを目指して必要な食環境整備や働きかけについて話し合う予定としています。 また、昨年に引き続き、園田学園女子大学のご協力のもと、食育 SAT システムを用いて食事診断ができる食育コーナーも設置します。 食育フォーラムの開催にあたり、チラシを数多く配布するため、チラシの裏面については、食事に関する具体的な啓発として、子どもでもできる手軽な方法で、今の食事を一段階ずつでもステップアップできるような内容となっています。こちらは、下に記載がありますように、園田学園女子

	大学の学生に原案を作っていただきました。 保護者はもちろん、子育て支援・教育関係者、飲食店等ビジネス事業者など、数多く参加いただけるよう、チラシ配布の他、市ホームページやフェイスブックでも適宜発信をしております。 委員の皆さまにおかれましても、PR 等でご協力いただけることがありましたらよろしくお願いいたします。
会長	商工会議所との共催となっておりますが、これは毎年このようなかたちで実施されているのでしょうか。
事務局	商工会議所との共催は今年度が初めてとなります。商工会議所では、“食が活きづまちを目指して”、食育でまちを活性化しようという活動がスタートしようとしています。例えば飲食店では、顧客の拡充に向け、食育の視点も取り入れて地産地消の食材を活用したり尼崎らしさを取り入れたりするといった内容です。市の食育推進と連携できればとお話をいただきましたので、これまで保護者等を中心に PR していた食育フォーラムについても、食ビジネス事業者等にも幅広く PR を行い、また新しいかたちで実施できればと考えております。
副会長	まだこれからの段階ですので具体的に述べることは難しいですが、食べることは生きることであり、尼崎の食を活性化しようという思いはひとつだと思います。様々な立場の方のその思いがつながるような取組みになればいいなと考えています。
会長	せっかくこのような活動が立ち上がるということですので、ぜひ活かして情報がつながっていけばいいなと思います。
事務局	ありがとうございました。本日は様々な活動をされている委員の皆様から、ご報告、ご意見をいただきました。 30 年位前であれば家庭で行われていたことを、現在では地域の中で体験していたり、感謝の気持ちを外で学んでいたり少しずつ変化してきているのかなと思います。また保育所や小学校でおそらく昔から継続して行われてきた取組みが、その中だけにとどまらず、少しずつ地域の中にも広がってきていることが感じられました。 こども食堂についてですが、今、こども食堂とひと言にいても様々なかたちがあります。本当に食べれない子どもをサポートするという目的で実施しているところもあれば、先ほどの報告にあったような、みんなで食を楽しんでコミュニティを作ることなどを目的で実施しているところもあります。このような取組みが急速に広がっているということは、食そのものや食を通じて学ぶことの大切さが改めて重要視されているということだと言えます。 情報発信に対する課題については、少しずつでも対策を講じていきたいと考えています。食育フォーラムのご案内は、皆様にもぜひご協力いただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。 本日はどうもありがとうございました。